

保育かながわ

発行所
 横浜市中区山下町1番地
 シルクセンタービル3階
 325A号室
 一般社団法人
 神奈川県保育会
 発行人
 山 本 昇
 題字
 故 内 山 岩 太 郎 筆

第五八回 神奈川県保育事業大会



令和七年四月二十六日(土)に海老名市文化会館、小ホールにて第五十八回・神奈川県保育事業大会が行われました。

主題『すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして』と題し、子どもや若者を権利の主体として認識しその最善の利益を図ることが示されている「こども大綱」の基本指針が目指す、こどもまんなか社会を目指すべく、全ての子どもの権利と育ちを保障していく社会の現実に向

けた私たち保育者の姿勢を広く社会に発信できるよう、多様なテーマでの研究協議を深め、先駆的・効果的な実践を学びあうことにより、保育・子育て支援の拡充につなげ保育実践の向上を目指すことを目的として開催されました。神奈川県保育会理事である相馬正覚氏(二宮町・二宮保育園)の進行により記念式典が行われました。



はじめに、県保育会副理事長・宮田丈乃氏(横須賀市・長井婦人会こども園)より開会のこと

ばがあり、多くの会員参加者や来賓の方々への御礼と、功績表彰者へのお祝いの言葉が述べられ、開会となりました。

続いて、保育士部会県内担当部会長・吉崎真理氏(横須賀市・公郷こども園)の指揮により全員で『はなのおさなご』を斉唱しました。



次に、児童憲章を保育士部会副会長・吉川まり子氏(伊勢原市・高部屋愛育園)が朗読を行いました。

続いて、県保育会理事長・山本昇氏(秦野市・やまゆりこども園)より主催者挨拶がありました。ご来賓をはじめ多くの参加者へ感謝の言葉が述べられ、六十八名の功労表彰者へのお

祝いの言葉が述べられました。

また、昨年、三原じゅん子こども政策担当大臣より保育の処遇改善見直しについての意見があったことを受け、人件費を過去最高の10.7%の引き上げを行い現状からの大脱却を目指し、全ての子どもや若者の幸せと未来を守ることを決意し、こども・若者支援に思い切つて加速して取り組んでいくことが述べられ、その中で、神奈川県保育士会としても、引き続き公共性と公平性に配慮して公益的な事業活動を展開し、子どもたちの健やかな成長と発達を見守る社会的な役割を果たすことを第一に考え活動していく決意が述べられました。そして、会場提供をしていただいた開催市である海老名市へ御礼のことばが述べられ多くの参加者への感謝のご挨拶となりました。

次に、六十八名の永年勤続者表彰者が発表され、表彰と記念品授与が行われました。代表として、(施設長)井上友美氏(海老名市・かしわ台あおぞら保育園)、(保育士)金子幸子氏(藤

沢市・村岡保育園）、〈栄養士等〉山本亜希氏（海老名市・さくらい保育園）が登壇され表彰・授与となりました。



続いて、神奈川県福祉子どもみらい局より、参事監・本間健志氏、神奈川県議会議長・柳下剛氏、神奈川県市長会副会長・佐藤弥斗氏（座間市長、開催市より海老名市長の内野優氏、神奈川県保育士養成施設協会より会長、横浜創英大学学長・北村公一氏と多くのご来賓の方々よりご祝辞をいただき、移行行く社会の中で国や県の施策を基にこども子育てにおいて今後の保育会への期待が述べられました。

ご紹介並びに、主催者紹介が行われ、神奈川県保育会保育士部会・渉外担当部長・早乙女美佳氏（茅ヶ崎市・湘南くすのき保育園）より祝電の披露が行われました。

最後に、県保育会副理事長・伊澤昭治氏（藤沢市・五反田保育園）より、今後においても保育の質に努めていくことを願う閉会のことばが述べられました。

本年度関東ブロック保育研究大会が開催される相模原市小磯会長より、PRが行われ、式典は終了となりました。



議長選出により議長を山本理事長に移して行われました。

議事録署名人として、岩澤貞之理事（茅ヶ崎市・中海岸保育園）と鈴木和代理事（平塚市・大町保育園）が選出され事業報告を事務局より報告いただき、研修においては年間実施計画のうち感染症拡大に留意しつつ、3分野（マネジメント・食育アレルギー対応・乳児保育）を実施したことの報告、情報の伝達や研修の充実、各種委員会の開催、保育事業大会の実施について等、報告されました。

また、利用者相談室の運営について、決算がありました。その後、神奈川県保育会監事・松森繁氏（神奈川県結核予防会）



より監事監査報告が行われました。

続いて、一般社団法人神奈川県保育会会員規定の一部改正について審議されました。変更箇所としては、規程（会員の資格）第二条の全国保育協議会会費を含む年会費について、令和七年度より全国保育協議会会費が2,000円値上げに伴い、会員会費の改定を行うこと、主たる事業の参加費および協力金の価格を改定することが審議されました。質疑等もなく議案について裁決が行われ、会員の承認を受けて、総会が無事終了しました。

研究発表

午後より三つのテーマについての研究発表が行われました。

一つ目の発表は、横須賀市保育会・保育士会による「新たな時代の保育実践」すべてのこどもにむけて、よこすかの魅力を発見する・発信する」の研究発表がありました。

現在も人口減少が進んでいることを踏まえ「ふるさと横須賀」が心に残るよう、PDCAサイクルをもとに三か年かけて研究に取り組んできたとのことです。

取り組み内容として一年目はまず自身が横須賀のことを知る・園の身近なところへ何か魅力的なものはないかを探すという分析から始め、各地区ごとに親子で実体験できるようにすること・場所や保育士ならではの目線で魅力となる素材を集めて保育士会で意見を出し合ったとのこと。そこで①歴史、②風景・景色、③公園、



④グルメ、⑤音楽、⑥スポーツ、
⑦建物、乗り物の7分野について
自園の地区内で意見を集め、
研究に取り組んだそうです。

二年目は五地区七分野について、
一年目の時に冊子にまとめたもの
の中から園ごとにPDCAサイクルを
もとに実践報告として保育ドキュメンテーション
を作成したとの発表がありました。
その際に初めて取り組む保育士にも
配慮し、全園で同じ本を用いて勉強したり、
他園のものを見せてもらい工夫
したりしたとの説明がありました。



三年目は二年目の取り組みからの
意見をもとに再度保育ドキュメンテーションにま

めたとのこと。又、三か年の研究を通して保護者に向けて自分たちの保育を語れるようになる等、
保育士としての成長を実感したそうです。

「こどもまんなか社会」が様々なところで聞かれる現在、横須賀市の研究発表を聞き、PDCAサイクルの重要性をあらためて再確認することができました。又、三か年という時間をかけて取り組んだ内容を聞き、一人ひとりの子どもたちのことを想っている先生方の気持ち
が伝わってきました。そして、研究した内容を保護者や地域の方にも公開し、横須賀の魅力
を発信していることは良い点だ
など感じました。これからも
県内の保育園で子どもたち主体の
保育がさらに深まり「こどもま
んなか社会」として子どもたちに
寄り添った保育を引き続き行っ
ていきたいとあらためて強く感じ
ました。

二つ目の発表は、足柄上郡開成町・
社会福祉法人はぐくみ福祉会による
「感謝する心や命の尊さを学ぶ食育活動〜地産地消の
楽しいおにぎり作り〜」の

研究発表がありました。



人口18,765人の開成町の保育所は、
当法人が運営する、酒田保育園、
酒田みずのべ保育園、酒田みなみの
保育園の3施設のみである。
昨年創立70周年を迎えた酒田
保育園が中心となり、それぞれの
地域性を考え保育内容を創りだ
している。

今回の発表では、酒田みなみの
保育園が長年取り組んでいる食育
（食育）の内容を中心にとめたもの
で3施設共通の取り組みとして『お
米』をテーマにした食育活動を連
携しながら実践してきました。

水田地帯の為、日頃より米作りの
風景を目にしており、田植えから
稲刈り、炊飯活動行い、

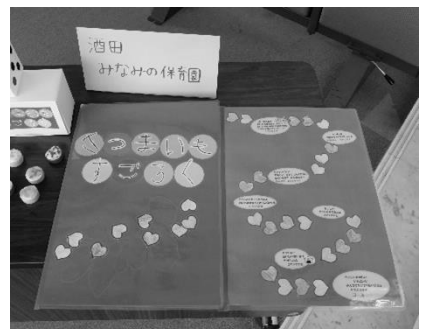
育てた作物を、ラップおにぎりや
焼き芋にして食べている。

酒田保育園では、お米作りや食育
体験から、お米・おにぎり・さつまい
もの、3グループに分けて、親子で
話し合い子ども達が興味関心を持
てるような「食育かるた」を制作

酒田みずのべ保育園では、防
災に對しての関心が高い保護者も
多いことから、園でのクッキング活
動で行なっている、ラップおにぎり
や、焼き芋を災害対応食として考
え、懇談会にて親子で話し合う。
そこから子ども達に分かりやすい
「えあわせカード」を制作

酒田みなみの保育園では、開
園から行っている、花壇を利用した
さつまいもの栽培経験から、子ども
がおいもの成長を、あそびの中で
楽しく学べる「さつまいもすごろく」
を制作

今後の活動としては、昨年能登半島
地震が起きたことから、コロナ禍
より継続して子ども達と学んでい
る「富士山と酒田川の歴史から学
ぶ防災教育」と連携して災害対応
食の、調査・検討を進めていき
たい。





三つ目の発表は、神奈川県保育会保育士部会、保育内容研究会による「配慮を要する子どもの心に寄り添う保育をめざして」エピソード記録を通して一人ひとりを大切にする保育を考えるの研究発表がありました。

研究を進めるにあたり、配慮を要する子どもの中でも、一、人と接することや言葉で思いを表現することが難しい子
二、心の揺れ動きによって行動に大きな影響が現れる子
三、療育機関とのつながりがな
い子の、三つに焦点をあて、進めることにしました。

研究方法としては、エピソード記録を取り入れ、保育環境や

保育形態が異なる園での子どもの姿を共有するために、研究員全員で取り組みました。さらにエピソードから見えてくる子どもの育ちに気付けるよう、共通の指標として保育指針にある5領域や幼児期までに育つてほしい10の姿を表にして可視化し、子ども理解を深められるように進めてきました。

研究を通して、子ども一人ひとりを大切にしていこうには、1、それぞれに特性、発達過程、とりまく環境等の違いがあり、時期や年齢によって変化していくものであることを念頭に置いて考える。

2、常に子どもの姿を捉え必要な配慮をし、支援の方法を考え取り組んで振り返りを行う。

3、課題や改善点を見いだして保育に取り入れていく。

以上3つのことをふまえた子どもを見取る力が必要だとわかり、進めていくことで一人ひとりの困り感や配慮が必要な状況が見えてくることも実感できました。

保育者自身が心身共に健康で、子どもひとり一人の最善の

利益を考え、丁寧なかかわりをしていくことで、保育者の専門性を高めていくことが不可欠であると感じました。

第六回 関東ブロック 保育研究大会



第六五回関東ブロック保育研究大会が『すべての子どもの権利と育ちを保証していく社会の実現をめざして』と題して令和七年七月三日(木)四日(金)神奈川県相模原市相模原市民会館にて開催されました。

大会宣言では、国の『保育施設の新たな方向性』にて「地域の

ニーズに合わせた質の高い保育の確保・充実」「すべての子どもの育ちと子育て家庭への支援推進」「保育人材の確保とテクノロジー活用による業務改善」の3つの柱に沿って保育施策が進められることや、「子どもまんか社会」の実現に向けて、「地域の子育て支援の担い手として主体的に新たな取り組みに備えていくことが大切等、宣言されました。

基調講演では、宇宙航空研究開発機構 JAXA 名誉教授の川 泰宣氏による「宇宙と子どもたちの夢や未来について」と題して講演があり、宇宙が身近に感じられるお話を、たくさん伺いました。



記念アトラクションでは、光明学園相模原高等学校和太鼓部の生徒さんによる、和太鼓演奏が披露されました。新しく、迫力ある演奏が印象的でした。



翌日は、第1から第8分科会特別分科会に分かれてそれぞれのテーマに沿って研究発表が行われました。

神奈川県は、第7分科会の議長を拝命し、大妻女子大学の岡健教授のもと、保育の社会化について、四県都市の研究発表と意見交換がありました。岡教授からは、それぞれの県都市へのアドバイスと保育の社会発信についてお話がありました。

研究発表では、第1分科会にて横須賀市保育会・保育士会、

第 6 分科会にて社会福祉法人はぐくみ福祉会による各研究発表がありました。

今大会を通して、地域ニーズに合った質の高い保育の提供と人材確保の両立については、都市部の地域でも厳しい状況は続いており、「こどもまんなか社会」すべての子どもの育ちと子育て家庭の支援という目標を達成する為には、保育の社会的意義と役割、保育実践などについて、関東ブロックの保育者が一堂に会することにより、対話し、学び、関係者の連携を深めることが重要であると感じました。



次回は、令和八年七月に千葉県千葉市で開催されます。

県・市町児童福祉主管課長と 県保育会との連絡協議会



令和七年七月九日(水) 十四時より、かながわ県民共済ビル六階ヴァランセにて、県・市町村児童福祉課長と県保育会委員との連絡協議会が行われました。

こども家庭庁より成育局・保育政策課長栗原正明氏、神奈川県より次世代育成課長大山由紀子氏、次世代育成課保育・待機児童対策グループグループリーダー山口直子氏、十二市町(横須賀市・平塚市・鎌倉市・藤沢市・小田原市・茅ヶ崎市・厚木市・伊勢原市・海

老名市・座間市・綾瀬市・愛川町)より主管課長様にご出席いただき、相馬正覚理事・総務委員長(二宮保育園・中郡)司会進行にて、会議が行われました。初めに、宮田丈乃副理事長(長井婦人会)こども園・横須賀市)より開会のご挨拶、続いて県保育会 山本昇理事長(やまゆりこども園・秦野市)より、主催者を代表してご挨拶があり、議長を山本理事長に代わり、連絡協議会の基調講演へと移りました。



基調講演では、子ども家庭庁成育局・保育政策課長栗原正明氏より、「保育政策のこれから」についてご講演いただきました。栗原氏は子ども家庭庁開庁時に障害支援課長として着任し、昨年の夏から保育政策課長になりました。

こども家庭庁は「こどもまんなか」をスローガンに掲げてスタートしました。初年度はこども基本法に基づく「こども大綱」が閣議決定し、初めの100か月ビジョンや子ども未来戦略を策定し、その司令塔を担ってきました。そして、量の問題+質(安全・育ちの保証)、量の目標から持続可能で質の高い保育への転換というところで、令

和七年度から令和十年度末を見据え、3つの柱を軸とした保育政策の新たな方向性が示され、その一つ一つの内容についてのお話でした。

一つ目の柱は、「質の高い保育の確保・充実」です。新子育て安心プラン(令和3年度から令和6年度末)により待機児童は大幅に減少している。待機児童が生じる原因は地域の事情により様々であることから、地域の課題に適時に対応した待機児童が発生しない体制確保への支援の仕組みの必要性の他、人口減少対策、保育所等の機能の拡充(多機能化の事例紹介)、幼児対象の小規模保育事業の創設の検討等がされています。保育提供体制の強化(職員配置基準の改善等)については、現在調査中で、来年度には調査結果が示せるのではないかとのことでした。虐待防止については、これからパブリックコメントをとる予定となっております。虐待の線引き事例やガイドラインの開示も予定しています。施設によって育ちの保証が偏らないよう、どう揃えてい

けるのか課題となっています。二つ目の柱は、「すべてのこどもの育ちと子育て家庭の支援」です。大きい施策としては、「こども誰でも通園制度」です。

昨年度のモデル事業から改善したものとなっています。また、多様なニーズに対応した保育の充実として、障がい児（特性に応じた育ちの保障や、専門職が保育の現場にいることを評価していく）、医療的ケア児（地域によってのサービスの差異のないように）等のインクルージョンの推進、病児保育、延長保育、一時預かり保育の充実、はじめの100か月の育ちビジョンに基づく施策の推進となります。

三つ目は、「保育人材の確保・テクノロジの活用等」です。増やすから持続可能な視点での保育士等の処遇改善一本化や見える化の制度（codeサーチでの経営情報等の収集・公表）、保育DXの推進による業務改善等です。人でないとできないことは人が、機械やシステムがしてくれることは任せていく様な仕組みを推進し、将来

像を共有しつつ連携して検討を進めているとのことでした。



これまでの内容を通し、質疑応答が行われました。国からの量から質への転換とのお話を受けて、県内の待機児童の多い市より、その実態とまだまだ量（施設の整備や保育士の確保、減産制度の経過措置、待機児童は減少しているが保留児童は増加している等）が必要とご意見が複数あり、栗原氏から今後の施策の参考にしていくと、お言葉をいただきました。

次に意見交換が行われ、神奈川県内の市町担当課長の皆さまから、保育を取り巻く現状や課題について順次コメントをいただきました。県内では待機

児童数は全体として減少傾向にありますが、一方で保留児童は依然として多く、「入りたくても入れない」状況は地域や子どもの年齢によって違いがあるようです。少子化が進む中で、申込児童数は緩やかに減少している自治体が多く、今後は保育の「量」から「質」へと転換していくことが、共通のテーマとなつていくとお話がありました。既存施設を有効に活用しながら、老朽化への対応を進めていく必要性も指摘されました。

また、多くの自治体から挙げられた課題が、保育士不足と障がいや特性のある子どもへの対応です。施設に定員や空きがあっても支援が必要な子どもが増える中で、人材が確保できず受け入れが難しいケースや、療育と保育を一体的に支援する体制づくりを考えている自治体もありました。

令和8年4月から制度化される「誰でも通園制度」については、期待の声がある一方で、慎重な意見も聞かれました。保留児童がいる中で、制度導入

や、人材不足の状況での受け入れに不安を感じている自治体も多く、現場に寄り添った丁寧な支援が求められていることが共有されました。



神奈川県からは、待機児童が減少してきた状況の説明とともに、人材確保に向けた就職相談会の実施、宿舍借り上げ補助、潜在保育士の掘り起こし、保育

サポーター制度など、さまざまな取り組みについて紹介がありました。最後に栗原課長からは、「現場の声を聞くことが何より大切です」とのお話があり、保育園に入りたくても入れない状況の解消に取り組むとともに、誰でも通園制度については、取り組みたい園が無理なく

進められる環境づくりや療育の面についても行政の役割として整備を進め、自治体・県・保育現場が連携して取り組んでいくことの大切さが改めて確認されました。

情報交換親睦会では、次世代育成課長の大山様、横須賀市子育て支援課長の有川様よりご挨拶をいただき、行政と保育現場の連携をさらに深めていくことを確認しました。

続いて、萩原顧問による乾杯のご挨拶をもって懇談が始まり、温かい雰囲気の中でおいしいお食事を囲みながら、参加者同士の親睦を深めることができました。名残惜しさを感ずつつも、和やかな雰囲気のまま閉会となりました。



全国教育・保育 研究大会

令和七年十一月二十日(木)
二十一日(金)の二日間、全国
保育協議会と全国保育士会の
一本化大会が東京都で開催。



おもてなしブース神奈川県
では江ノ島タコせんべい配布
初日はオープニングアトラク
ションからスタートです。

社会福祉法人東京光の家 光バ
ンドによる演奏、参加者からは
温かい拍手が送られました。

次は式典です。児童憲章朗
読・物故者への黙祷が終わり、
主催者挨拶として全国保育協
議会奥村会長、全国保育士会北

野会長、全国社会福祉協議会金

井常務理事、東京都社会福祉協

議会鳥田常務理事、東京都社会

福祉協議会保育部会下竹部会

長、東京都保育士会渡邊会長か

ら今大会への思いを聞く事が

できました。その後、小池都知

事より、録画映像による来賓祝

辞がありました。続いて表彰が

行われ、全国保育協議会特別感

謝・全国保育協議会会長表彰・

全国保育士会感謝状を全国で

あわせて一七七四名の方が受

賞されました。神奈川県からは

六名の方々が荣誉ある会長表

彰を受け、その功績がたたえら

れました。受賞者の皆様おめで

とうございます。式典の最後に

大会宣言が読み上げられ、参加

者の拍手により採択されて式

典が終了。その後は子ども家庭

庁による行政説明があり、今後

の保育行政に関することを学

べる良い機会でした。

次に全国保育協議会奥村会

長、全国保育士会北野会長によ

より締め括られました。

二日目は分科会です。第7分

科会にて神奈川県保育会保育

士部会 保育内容研究会、第1

2分科会にて社会福祉法人は

ぐくみ福祉会による研究発表

が行われ、各分科会では全国の

方々との意見交換があり、保育

に対する理解を深めました。

保育の日前夜祭

令和七年十二月三日(水)かな

がわ県民共済ビル六階ヴァラ

ンセにて、「保育の日前夜祭」が

開催されました。当日は、長年

にわたり子ども達の育成に多大

の貢献をなされた受賞者の皆様

をお招きし県行政、保育関係者

が一堂に会してお祝いしました。

また、日頃より保育の現場に

て子ども達の成長を支えている

皆様の労をねぎらい、今後も保

育事業のより一層の進展に資す

る事を確認しました。

伊澤副理事長の「開会のこと

ば」に続き、山本理事長より受賞

者の皆様にお祝いの言葉が述べ

られました。



☆神奈川県保育賞

横須賀市 (浦賀こども園)

飯尾 和恵様

南足柄市 (華綾保育園)

遠藤 綾子様



☆全国保育協議会会長表彰

二宮町 (二宮保育園)

相馬 正覚様

鎌倉市 (清心保育園)

今村 知佳子様



☆厚生労働大臣表彰

横須賀市 (公郷こども園)

並木 昌美様

厚木市 (厚木ふじの花保育園)

朝倉 眞弓様

逗子市 (双葉保育園)

横地 みどり様



☆県民功労者表彰

茅ヶ崎市 (中海岸保育園)

岩澤 貞之様

以上の皆様方受賞おめでとう
 ございます。心よりお祝い申し
 上げます。受賞者の方々からは
 受賞の喜びや現場の子ども達へ
 の思いや周囲への感謝の気持ち
 が伝わるご挨拶を頂きました。
 また、ご臨席頂いた神奈川県議
 会厚生委員会 山本委員長、神奈
 川県次世代育成課 大山課長、
 神奈川県社会福祉協議会 小泉
 会長、神奈川県保育士養成施設
 協会 北村会長からも、お祝いや
 励ましの言葉を頂きました。



式典後には、世界大会第9位
 リーダー原田芳宏氏率いる「パ
 ノラマスタイル オーケスト
 ラ」によるスタイルパン演奏
 がおこなわれました。陽気なり
 ズムとスタイルパンの優しく

て、きれいな音色、演奏者の熱気
 とパフォーマンスに、参加者は
 大興奮で大盛り上がりとなりまし
 た。2曲が終わり、最後にステイ
 ールパンでは定番の名曲「アン
 ダーザシー」が演奏され、鑑賞
 会は終了となりました。

懇親会は藤田副理事長の乾杯
 のご発声で和やかに始まりおい
 しい食事と温かく楽しい雰囲気
 の中、参加者同士での親交を深
 めることができ終焉を惜しまれ
 ながら伊澤副理事長の「閉会の
 ことば」にて閉会となりました。

保育のつどい

令和七年十二月六日(土)や
 まと芸術文化ホールにて、第六
 十一回「神奈川県保育のつどい」
 が開催されました。

第一部の記念式典では首藤
 副知事より受賞者七名に賞が
 贈呈。当日は、保育士養成校の
 学生含む、関係者四五五名が参
 加され、保育賞にふさわしい華
 やかな贈呈式となりました。

第二部の記念講演では「保育
 士を目指す皆さんへ」という題

目で養成校より選ばれた代表
 がインタビュアーとなり受賞
 者の皆さんに質問するという
 形式で行なわれました。



キャリアアップ研修

令和七年度の神奈川県保育
 会研修は、令和七年七月十五日
 (火)より、令和八年二月十七日
 (火)まで、全十二講義を実施。

◇神奈川県保育会の広報誌
 『保育かながわ』は、赤い羽
 根共同募金の助成金で発行し
 ています。



国会議員要望活動



全保協会長会議の日程に合
 わせて十二月四日に全国の国
 會議員に要望書を手交する活
 動に理事長、副理事長等四名で
 参加しました。

県所管内選出の衆議院議員
 四名と参議院議員三名の合計
 七箇所の議員会館にある事務
 所を訪問。内容は、全国統一の
 活動のため、過疎地対策なども
 含まれますが、保育士や調理員
 の配置基準の改善や通称「だれ
 つう」等、七件の要望を行いま
 した。詳細は会報せんほきよう
 一月号をご覧ください。

